

「一人一人が目標達成のために、自己調整しようとする児童生徒の育成」 ～学級活動(2)における、目標に対しての振り返りを充実させる工夫を通して～

令和7年度 邑楽町教育研究所 授業改善研究班

学級活動(2)の目標

「学級での共通の課題を見だし、多様な視点から解決方法を見つけ、
自己の具体的な実践課題を設定して、粘り強く努力できる児童・生徒の姿」の実現

自己調整を促すための手立て

- ① 客観的に自分を見つめることができる環境づくり
- ② 目標の再構築のための他者との交流

〈邑楽町の児童生徒の現状と課題〉

- 課題を「自分ごと」として捉えていない。
- 客観的に自分を見つめる力が不十分。

〈教師の願い〉

- 日々の学校生活や行事の中で自己調整ができる児童生徒を育成したい。
- 児童生徒が自ら立てた目標に向かう過程で困難に直面した際、それを乗り越える力を育てたい。

〈成果〉

- 継続した振り返りの仕組みを作ることで、「先生に言われたから書く」から「自分で振り返りたいから書く」児童・生徒が増えた。また、振り返りから自分の成長に気づいたり、前回の反省を生かそうとしたりする姿も見られた。
- 友達からの相互評価や、振り返り資料の教室掲示、児童・生徒の言葉を学級全体で共有するなどの振り返りの工夫を行ったことから、他者の多様な考えにふれることができ、目標達成のためのモチベーションを高めながら取り組む児童・生徒の姿が見られた。
- 視点を与えて継続的に振り返りをさせることで、目標の達成に向けての見通しをもつことができた。それを友達と共有することが自己調整のきっかけとなった児童も多く見られた。
- 振り返りが継続してできる仕組みづくりを考えていく上で、学年に合わせたワークシートづくりが大切であることがわかった。低学年において、色塗りで自身の頑張りを評価していくことは、振り返りの習慣化や自信につながったと考える。
- 学級全体での振り返りの時間を作ることで、振り返る時間を大切な学習の時間と捉えるようになり、そこで学んだことを次に生かそうとする意欲が高まった。

〈課題〉

- 振り返りが形式的になってしまう児童・生徒が見られた。個々の課題や目標に応じて改善や修正につながるような、より丁寧な支援や手立てを検討していく必要がある。

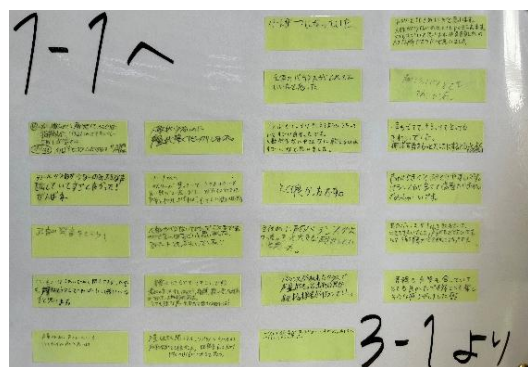
- 自己調整力を高めるための話し合いの場の設け方について、検討する必要がある。(どんな視点を与えるか、発問の工夫、場の工夫など。)

- ワークシート簡略化は継続して取り組むことには有効だが、自己調整の気づきが残る工夫が必要である。

〈具体的な手立て〉

「つかむ」段階

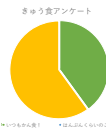
客観的な視点から課題をつかむための、他学級、他学年の意見(①)



学級の現状や取組の様子を示すための写真や動画、アンケート結果(①)



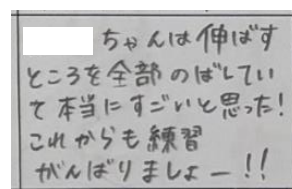
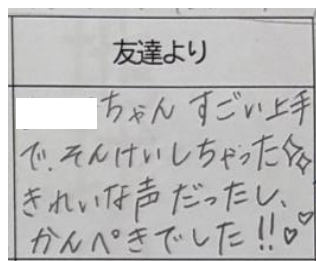
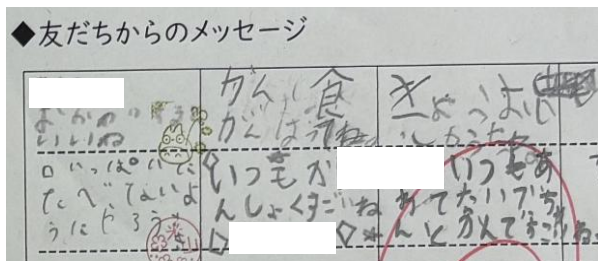
②きゅう食は、
のこさず食べることができますか？



いつもかん食！
はんぶんくらいのごす
たまにのごす
ほとんどのごす

「さぐる」段階

目標や取組の振り返り、新たな課題を探るための児童生徒同士の相互評価(②)



具体的な行動や数値で解決策、改善策を表記(①)

目標の振り返り	
8 10点	一言・理由 準備も片付けもスムーズに なっていて、最後4泊はあそ とけび、声もはじ、きれいな声 はして歌えました。
8 10点	一言・理由 サベの前は大きく息をうう うにして、のびのびときれいに 歌っていました。

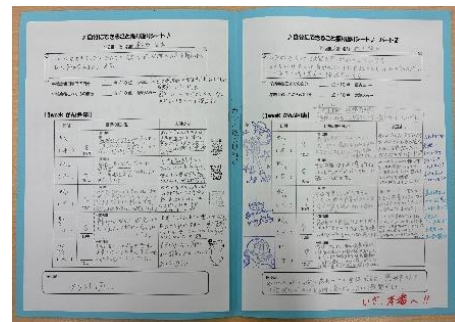
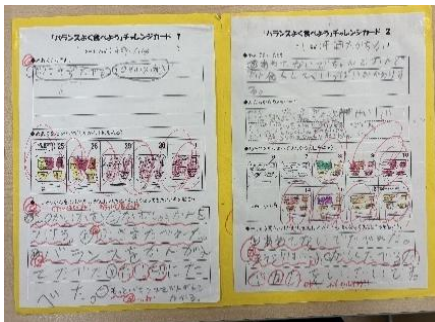
「見つける」段階

ペアで取り組みのチェック、グループでの話し合いなど、児童生徒同士で高め合う仕組みの構築(②)



「振り返る」段階

取り組みの積み重ねがひと目でわかるようなワークシートの作成(①)



手立て①に関すること・・・(①)、手立て②に関すること・・・(②)